

## 安全衛生だより第6号

- 7月全国行事
  - 国民安全の日 7月1日
  - 全国安全週間 7月1日～7月7日
- 安全・衛生・防災の心得 : 4 S 関係について
- 当社 良い事例 (抜粋)
- 他社 事故・災害事例から : フォークリフト ボックスパレットが運搬中に崩壊
- ヒヤリハット事例 : 配管がずれて壁と配管に手を挟みそうになった
- 今月のキーワード

---

### 2. 安全・衛生・防災の心得 : 4 S 関係について

- ・ 4 S は整理・整頓・清掃・清潔
- ・ 4 S は「安全の第一歩」、「災害防止の基本」
- ・ 4 S はこまめな活動の積重ね
- ・ 4 S は全員参加で維持継続

#### 「実施事項」

- 1) 作業に必要なもの以外は持ち込まない
  - 2) 安全な作業通路を確保する
  - 3) 分電盤、電源ボックス、消火設備、救急設備の前に物を置かない
  - 4) 出入口、非常口、消防隊進入口の周りに物を置かない
  - 5) 作業に必要な器具・資材等を置くときは担当部署の許可を得る
  - 6) 材料、資材等の置き場、置き方、積み方を確認する
  - 7) 強風時等、資・機材の飛散防止を行う
  - 8) 残材、廃材、廃棄物、不要物は適正に処分する
  - 9) 有害物、危険物は放置しない
  - 10) 車両等 (自動車、フォークリフト) からの油や冷却水の漏れをチェックする
  - 11) フォークリフト、治工具、台車、ハンドリフター、清掃用具等は置場を設定の上表示し、未使用時は必ずその場所に置く
- 上記は、当社構内作業安全基準書に記載しております。基準書には、急所、ポイント等の詳細も記載しておりますのでご利用をお願い致します。

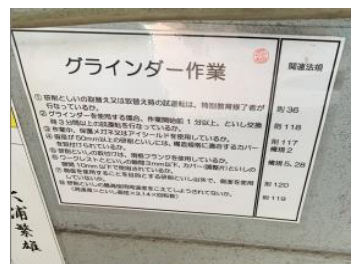
### 3. システム監査 良い事例 (抜粋)

#### ●仙台工場

- ① 傾斜油切り : 創意工夫を行い安全及び品質面を向上させていた



- ② グラインダー作業の注意喚起 : 掲示を行い、砥石の交換基準等を見える化していた



#### 4. 他社 事故・災害事例から：プレス部品を入れたボックスパレットが運搬中に崩壊

##### (1) 災害発生状況

フォークリフト（最大積載荷重1.5 t）の運転者が、プレス加工された部品を入れたボックスパレットを4段（高さ2.8m、重さ1 t）に積み、工場内の通路を後ろ向きに走行していた。走行中、後輪が通路の溝に被せてある鋼製の蓋（地面との段差10mm）を乗り越えた衝撃で大きく揺れ、積み荷のボックスパレットが右側に傾きかけた。

そこで、ボックスパレットを走路上に降ろそうとフォークリフトを一旦停止させたところ、最上段のボックスパレットが落下し、通路に面している休憩所にいた別の作業者を直撃し、死亡させた。



##### (2) 災害発生原因

###### <不安全行動>

- ①ボックスパレットを4段積みにしたこと（積み荷の重心位置が高くなり、崩れやすくなった）。
- ②段差箇所で十分な減速をしないで乗り越えようとしたこと。

###### <不安全状態>

- ①通路に地面との段差10mmとなる鋼製の蓋が設置されていたこと。
- ②休憩所は走行路側が解放状態で、フォークリフトとの接触防止の措置を行っていなかったこと。

##### (3) 再発防止対策

①フォークリフトによる荷の運搬をする場合は、積み荷を安定した状態にするため、できるだけ積荷の重心位置を低くする。なお、荷の積載条件については、法令上の規定によるほか、フォークリフトの構造上の特性および荷の安定度などを考慮して、多少の衝撃があっても荷が落下しない措置を講じる。

②休憩所を作業エリア外の安全な場所に移設するか、休憩所の周辺に作業場所や通路から影響を受けないよう、十分な高さの堅固な柵を設置するなどの対策を講じる。

③フォークリフトの走行路は、事前に障害物などの有無について十分点検し、できるだけ段差をなくすなどの整備を行う。

●当社でも、起こりうる事故です。フォークリフトでは、特に、積み荷の重心、速度、段差に十分注意して走行しましょう。

#### 5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	配管補修中
どこで	塗装ライン水切り出口で
何をしている時に	エア配管をつなごうとしたとき
どうなった	配管がずれて壁と配管に手を挟みそうになった

#### 6. 今月のキーワード

##### "非常作業"

非常作業とは、保守、トラブル対処など、通常とは異なる作業をいい、一般的には労働災害につながりやすいと言われております。

非常作業中に労働災害が多い理由としては、次のようなことが指摘されています。

- (1) 日常的に反復・継続して行われることが少ないため、作業者が習熟することが少ない。
- (2) 十分な時間的余裕がなく行われることが多いため、設備面及び管理面での事前の検討が十分でないことが多い。
- (3) 複数の部門（製造部門、保全部門等）にわたって、混在して行われることが多く、作業指示が不明確になりがちである。

当社においても、過去に非常作業中に労働災害が発生しております。十分注意して作業を行って下さい。

以上